

平成18年7月6日

## 平成18年度 終了評価書

研究機関 : 財団法人インターネット協会  
研究開発課題 : モバイルフィルタリング技術の研究開発  
研究開発期間 : 平成16～17年度  
代表研究責任者 : 国分 明男

### ■ 総合評価(SABCD の5段階評価) : 評価A

社会的意義のある研究成果が得られており、高い実用可能性が認められる。

(コメント)

- 課題の性格上、知財としての成果よりも社会的意義が重要である。
- モバイル通信事業者と協力して研究開発を行い、実用への道が開かれた。さらに、研究開発の成果を踏まえ、モバイル端末における使いやすいフィルタリング設定の可能性についてもあきらかにし、近未来的な実用が期待される。
- 時宜を得た研究の提案だけでも充分評価に値する。ネットワーク技術の今後の進展を見据えて最適なアーキテクチャやビジネスモデルについても更なる研究が期待できる。

## (1) 事業の目的および政策的な位置付け : 評価A

政策的な位置づけは明確であり、社会的な意義も大きく、国が推進すべき重要な事業である。社会的注目が高まりつつあるタイミングで実施しており、事業者による取組とのタイミングも考慮されている。

(コメント)

- 科学的・技術的な意義は、技術革新性の点では特に大きなポイントはないものの妥当である。
- 青少年がインターネットを利用する際の安全性の向上に直結した研究開発であり、重要な事業である。
- 官民の協力体制が整備されており、また役割分担について明確である。

## (2) 研究開発目標 : 評価B

設定目標は現時点でも妥当性がある。

(コメント)

- 設定目標は概ね妥当であるが、次世代PICSの標準化については、W3Cへの提案状況によって、最終年の目標を変更することも検討すべきであった。

## (3) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む) : 評価B

全体として適切なマネジメントが行われた。

(コメント)

- 携帯電話事業者と連携して行われており、評価できる。
- 利用者を対象とした調査など労務費の占める割合が大きい研究であるが、適切に管理されている。

#### (4) 研究成果の達成状況 : 評価B

次世代PICSの国際標準化において、若干の課題が残されたほかは目標が達成されている。

(コメント)

- 次世代PICSの国際標準化については、W3Cへの反映が不十分であるが、今後の可能性は残されている。なお、国際標準化が遅れている点については、モバイルフィルタリングに対するニーズは日本が先行していることもあるので、やむを得ない部分もある。
- 次世代PICSの標準化については、目標とした国際標準化までには至っていないが、後に他国が参加するなど、この分野で先行した点は評価できる。国際標準化は、他国との関係により時間がかかるものであり、目標が未達である理由としては妥当である。
- 技術革新の早さと国際標準化の遅さは常につきまとう条件であり、目標は未達成であるが、担当者の活動は評価できる。

#### (5) 研究開発成果の展開および波及効果 : 評価A

成果の高い実用可能性が認められるとともに、当初想定された以上の波及効果を得られる見込みがある。知財戦略については十分とはいえないが、事業展開が図られる見通しである。

(コメント)

- すでに携帯電話事業者においてサービスが提供されており、今後も携帯電話事業者を中心として、成果展開が期待できる。
- すでに携帯電話事業者によってサービスが開始されたということは、本研究の狙いが社会的な要請に適ったものである事の証左である。研究成果だけでなく、間接的な波及効果として充分評価できる。

#### (6) その他(広報活動 等) : 評価A

保護者に対する広報が重要であり、今後とも必要性は高い。

(コメント)

- 新聞など一般に広げるためのメディアで報告されている。
- メディアだけでなく販売店を通じた新規契約者へのPRなども推進して欲しい。